

第2号様式（第3関係）

平成26年度第2回豊山町生涯学習推進審議会会議録

- 1 開催日時 平成26年12月16日（火）午後2時00分から
- 2 開催場所 豊山町役場 2階 会議室1
- 3 出席者 豊山町生涯学習推進審議会委員
（役職及び氏名） 会長：岡田洋司
委員：一木直久、宮沢洋子、岡島千衣子、渡辺博史、岡島剛、
谷口富士子、石黒俊彦、大野容子、大野純子
欠席：山本達三、山田久美子
事務局：西川徹教育長、堀場昇教育部長、秋田和清係長、安藤彬主事
- 4 議題 (1) 平成26年度生涯学習事業の進捗状況について
(2) その他
- 5 会議資料 ・平成26年度生涯学習事業の進捗状況について 資料NO.1
・平成26年度生涯学習学級講座受講状況について 資料NO.2
・文化振興事業パンフレット、生涯学習情報「生きがいタウン(後期)」、
サロンコンサートチラシ3部、家族芸術劇場チラシ

6 議事内容

(司 会) 本日は、お忙しい中、定刻までにご参集いただきありがとうございます。ただ今から第2回生涯学習推進審議会を開催します。議題に入ります前に、この審議会等の議事録はホームページに掲載することをご承知おきください。

—配布資料の確認—

それでは、最初に会長よりあいさつをいただきます。

(会 長) だいぶ寒くなってまいりまして、一年はすぐだなと近年特に感じます。研究というものを始めてから40年経ちました。学問というものを取り巻く状況も変わってきたなと感じています。色々あるのですが、昔は人間の幸せとか社会のあり方を考えて学問を始めていたのですが、最近少し風向きが変わってきました。たいてい学問の裏にはお金が絡んでいて、それでもって学問が進んでいる、そういう傾向にあると感じています。歴史や哲学といった、お金にならない学問、そういったものが絶滅危惧種になりつつあります。たとえば大学でもそういった科目、学科が廃止

されています。理系を優先して、文学部などを止めていこうといった動きもあります。それは危険なことで、学問の一番根本には、人間、あるいは社会の幸せを考えていく姿勢がなければならないと思います。そうすると生涯学習というものもそういった流れを汲むものがあるのもいいと思います。学ぶということには、自分のためだけではない何かが含まれている、そう考えています。進捗状況だけではなく来年の科目などについても議論していただきたいと考えています。

(司 会) 次に、西川教育長があいさつを申し上げます。

(教育長) 委員の皆様には、日頃から生涯学習の分野でいろいろとお世話になり、ありがとうございます。

先週金曜日に議会が終わりました。一般質問で2つ生涯学習に関する質問がありました。1つは図書室の整備でした。もっといろいろな所に配慮して図書室の充実を行えないかということでした。もうひとつは社教センターの設備の老朽化について要望を込めた質問でした。次の日に議員さんから図書室の掲示について、意見を頂きました。そういうことから、生涯学習は期待と関心があると思えました。前回の審議会では非常に活発なご意見を頂きました。今回も忌憚ないご意見を頂きたいと思えます。

(司 会) それでは、これより議題の審議に入ります。ここからの取り回しは会長をお願いします。

(会 長) 議案(1)「平成26年度生涯学習事業の進捗状況について」事務局より説明をお願いします。

～平成26年度生涯学習事業の進捗状況について～
資料により説明。

(会 長) 今年度の講座状況は見通せたかと思えます。色々な問題点もあると思えます。皆さまから、意見、質問、などはございますか。

だいたい今までと同じような傾向にあると思えますが、自分自身の関わりから言うと、オープンキャンパスが中止になりました。来年はどうしようかと考えております。やり方は2つあって、テーマも設けてやるやりかた、もうひとつは各先生に今一番話したいことを話してもらいやりかた。今回は先生方にお任せしました。反省としましては内容がバラバラになってしまったこと、何回かやってきた企画なので別の形が必要かもしれないということです。この事業は町と大学が協定を結んでいるということでやっております。場合によってはその枠を取っ払って考えてもいいかもしれません。このことについて何か意見はございますか。

(委 員) NPOがどういうものかということが雑談の中で出てきたことがあります。スポーツ、子育て、料理といったものは目の前の生活と関わっているので関心が高いと思えますが、オープンキャンパスの内容を見た時にテーマが少々入りにくいと思えます。事務局にお尋ねしたいのですが、開講の人数の基準があると思えます。直前になって開講基準に達してい

なかったときに、タウン紙などでアピール等はしないのですか。なんとか開講しようということはないのですか。

(事務局) オープンキャンパスは後期講座の受付開始の9月16日からでして、9月中に申し込みがあったのが2名で、引き続き募集しておりましたが、1週間前に岡田教授に相談させていただきました。開講の最低人数は3割を目安にしております。3割までいけばそこから更に別の講座の中などでPRしていくのですが、オープンキャンパスの開始時期が後期講座の中でも早かったのもあって、周知することが難しかったです。

(委員) これまで前期講座だったものが後期になったことで、意識を持ってもらいにくかったということはありませんか。

(事務局) 要因の一つではあると思います。

(委員) もったいなかったなと思います。

(会長) 内情としましては、先生が忙しくて、日程調整ができなかったということがあります。

(委員) 他市町村の方と話す機会が結構あって、オープンキャンパスはよく誉められます。話題になることも多いので、なんとかならなかったのかと思います。

(会長) タイトルの付け方が固いですかね。またこれは講義です。最近は大学でも講義形式よりも、ディスカッションや作業を取り入れたりと、そういったいろいろなやり方を取り入れています。ノウハウの蓄積ができてきました。例えばコーヒーでも飲みながらお話会のようなものを、内容を落とさずにやることもできます。そういった工夫が必要なのか、それとも企画自体が難しいのか。タイトルを工夫して、作業を取り入れ、もっと言えばお茶をしながらというように、軽い雰囲気、内容はしっかりという様にすれば、負担を少なく、知的好奇心を満たせるのではないかと考えています。講座を続けていく場合、スタイルは変えていかないといけない、そう考えています。

(委員) 定員20名ということですが、5回全部参加ということですか。

(会長) 基本的にはそうです。

(委員) 名古屋の方で市民大学講座に参加していますが、10回全部参加というのは難しい。単発で行ける時には行くようにしていますが、平日の午前中という時間帯は、講座にみえるかたの年齢層も決まってくると思います。そういう方々が5回全部出席されるのがベストだと思いますが、単発というのはどうでしょうか。

(会長) 単発の形はアリだと思います。事務局には面倒をおかけするとおもいますが、今回提案させていただこうと考えていました。例えば豊寿大学などは10回ですね。当然出られない方もみえます。その辺りは柔軟に対応してもいいかなと思います。単発の講義の受講者を受け付けるというのも必要なのかもしれません。

- (会 長) ほかに皆さん方からご意見や質問などはありませんか。そば打ちは人気があったと思いましたが。
- (委 員) 2回に分けて多くの人に参加してもらいたいと以前申し入れたのですが、人数を聴いて驚きました。昨年参加して説明を聴きながらそばを打つのですが、打つだけで食べられない。参加者同士の会話が無かったので、感想をいう機会が無かった。参加者のものを少しずつ頂いて、その感想を交換する機会があれば良かったと思いました。そうすればもっといろいろ気付くこともあったと思います。
- (会 長) 去年までの状況から、もっと参加者があるかと思いました。
- (委 員) 今年は遠慮していたのですが、人が少ないなら誘ってほしかった。今人数が何人かとそういう掲示が欲しいです。
- (事務局) そば打ちは10月になっても3人のままでしたので、11月に他の生涯学習講座でチラシを配布いたしました。ですが、反応がありませんでしたので、放課後子ども教室で配布したところ、親子1組の追加がありました。次年度についてはそば打ちも変更して、親子参加型にしようかと考えております。
- (委 員) 以前も食べる用意はしなかったのですか。
- (事務局) 昨年は用意をしたのですが、ほとんどの方が帰られました。今回は人数が少なかったので用意しませんでした。来年は親子参加型にして、試食会まで含めようと考えております。
- (会 長) これに関しては食べるころまで含めた方がよいと思います。
- (委 員) 一回で上手く出来ましたか。
- (委 員) 難しいですね。
- (委 員) 他のところで6回講座を受講したことがあるのですが、そこまでやっても難しいところがありました。親子参加なら一回でも楽しくできて良いかと思いますが、一般対象に単発の講座は時間が少ないのではないかと思います。対象を考えて講座の回数を設定する必要があると思います。
- (会 長) 一回で満足できるほど上手く出来るかといえば難しいですね。
- (委 員) 複数回だと人間関係も深まって楽しくなるのではないかと。
- (会 長) 人間関係ができるのは大事なことだと思います。地域でやる場合には一回で、さようならではもったいない気がします。
- (会 長) それからダンス教室について、人数が半分くらいですが、何か理由がありますか。
- (事務局) 新規事業で周知できなかったのが原因だと考えています。
- (会 長) 来られた方はどのような年代が来られましたか。
- (事務局) 親子参加が多かったです。
- (委 員) 50歳過ぎの知り合いが参加したのですが、結構きつかったのでギブアップしてしまいました。どんな感じが分らなかったみたいです。
- (会 長) 今は中学校でも授業でやっていらっしゃいますよね。
- (委 員) どういったものですか。

- (委員) かなりハードなものになります。とよやまDEないとのステージで小さい子が踊っているようなものですね。親子でやってらっしゃる方も多いと思います。
- (会長) こういうものを学校でやってきた年代と、そうでない年代とでは意識も体力も違うと思います。どちらに対象をあわせるか、レベルの設定も慎重にする必要があると思います。
- (委員) 学校で行われているダンスは、どういう理由でヒップホップを選ばれたのですか。
- (委員) 一般的に流行っていますし、子どもも親しみがあります。
- (委員) 健康フェスティバルなどで踊っている小さい子なんかはとても上手です。そういう形の教室だったのですか。
- (事務局) ヒップホップですので、動きも激しいですし、皆さん苦戦されていました。
- (会長) 他に何か質問はありますか。
- (委員) ニュースポーツ教室はとても人気があるように思います。どのような競技をされたのですか。
- (事務局) カローリング、ラダーゲッター、ペタンクになります。
- (会長) 人気のない競技もありますし、必ずしも人が集まるわけではない。今回は良く人が集まったなと思います。
- (会長) それでは議題1は終了とさせていただきます。引き続いて来年度の事業について、話し合いたいと思います。次年度以降どういったものを取り上げていけばいいのか、内容、やり方について考えていきたいと思います。
- (会長) 音楽関係はサロンコンサートがありますが、例えば美術関係、絵とか陶芸といったものが無いと思います。それから自分史とかもここに入れられるのではないかと思います。単発のものもいくつか入れてもいいと思います。それをもって参加者の意識を変えることができると思います。こちらとしても“お試し的”にいれてもいいと思います。いろいろな条件があると思いますが、中身が固定化しているという指摘もありましたので、何かないでしょうか。よく他の市町へ行くとロビーに講座の作品が飾ってあったりします。そういうのも一つの手だと思います。
- (委員) 委員からの案だけではなく、町民からのアンケートの中に実施して欲しい講座についての項目はないでしょうか。
- (事務局) あります。
- (会長) インターネットを見ていると、他市町村の生涯学習のページも見ることができます。小都市、人口4～5万の都市と比べると絵とかそういった系統が少ないと思います。
- (委員) サークルを支援するという流れがありますが、申し込みなどはありますか。それとアンケートの回答者が何かの講座に申し込みに来た方のよ

うに見受けられますが、そこが気になるのですが、今後もその方針ですか。

- (事務局) アンケートは申し込みの際に書いてもらっています。
- (会長) 終わった段階でアンケートを取って、今後の反省と方針にするのが筋だと思います。
- (委員) 全体の回収は難しいと思いますが、他の所でやっているような、全戸に配って、書きたい人だけ書いて提出するというのはどうか。
- (会長) どういう方法でやっていますか。
- (委員) 町内会を利用しています。希望がある人は提出すると思います。
- (会長) 配布と回収のコストを考えると良いかもしれませんね。
- (委員) 広報とよやまと一緒に配布してはどうですか。広報を見る方は町のことに関心のある方が多いので、そういうものと一緒にはどうか。回収はどこかにボックスを設置します。
- (会長) 生きがいタウンの分野、ジャンル別に希望の講座を書いて貰う、もしくは自由に書いて貰うというように、中身は検討する必要があります。
- (委員) 希望の他に、講座を開きたいというのも書いた方がいいと思う。
- (会長) アンケートを取ろうと思った場合どのくらいの準備期間が必要ですか。
- (事務局) 町内回覧で全戸に回覧して、希望を書いて貰うというのは、豊山町のルールとして、自治会を使って回覧をするという習慣になっていないので、広報を利用して、講座について意見を募集するという形にしていきたいと思います。準備ができ次第掲載していこうと考えております。
- (委員) 先程町内会といいましたが、ここは新聞販売店を利用されているのでそこに一枚足してもらおうというのは駄目でしょうか。
- (会長) 方法については検討してもらいましょう。アンケートという形でやらないと意見は集まらないと思います。まず今回の結果を見て行きます。前期と後期のものがありますが、かなりバラバラですね。あまり目新しいものはありませんね。アンケートの取り方も関係あるかと思います。今の枠組みの中で参加されている方が書いたもので、新しい需要を掘り起こすには向いていないと思います。強いて複数上がっているものを上げると茶道、園芸、手芸辺りですね。手芸とは具体的になんでしょうね。
- (委員) 編み物、パッチワークも別にあります。
- (委員) 友人からも手芸はありませんかと聞かれたりする。
- (会長) 園芸はどういうものでしょうか。
- (委員) 寄せ植えや庭木の整理の仕方などではないでしょうか。
- (会長) アンケートは来年度の春に間に合わないかもしれませんので、今上げた二つくらいを候補にしてみましよう。
- (委員) オープンキャンパスの最後に学泉大学に行ったりするものがありますが、そういうのが楽しくて参加している。美術館へ行く半日くらいのツアーの勉強会があればいい。友だちを誘って行ったりするのは難しい。
- (会長) 手芸、園芸、美術館巡りの3つを検討してください。

- (委員) 日本の伝統的なものに関する講座が少ないように感じます。分野別にこれまでやっていないものを行うことで新しい参加者を呼ぶことはできないか。年齢や性別を考慮して講座を検討して欲しい。そうすることで何年かで町民全体の興味関心に応えていけるのではないか。
- (会長) まずスケジュールについてですが、来年度のものはいつまでに確定させればいいですか。
- (事務局) 1月中です。事前の調整はもう少し前からです。
- (委員) 来年度だけではなく、それ以降についても考えてほしいです。
- (会長) この審議会は年度内にもう一度あったと思いますが、次はいつですか。
- (事務局) 3月頃を予定しています。
- (会長) とりあえず来年度は、今の形で行かせてもらい、それ以降はシステムチックにできるような方法をとっていくということによろしいでしょうか。
- (委員) システムは事務局が考えるということによろしいですか。
- (会長) いいと思います。来年度に関しては行き当たりばったりなことは認めますが、とりあえずそれしかないと思います。
- (委員) これまでの講座のデータを見せてもらって、長く続けているものを廃止していくのも一つの手だと思います。これまでやっていないものやすることで、参加してこなかった人たちの興味関心を引けるのではないかと思います。
- (会長) 例えば豊寿大学などは趣旨が違うと思いますので、別枠だと思います。
- (委員) 生きがいタウンも全戸配布から、邪魔くさいということで各部署に置くようになったという経過もあります。その辺りは検討してもらわないと、前期講座が開催できなかったとかいうことになりかねないので、リサーチが必要です。
- (会長) 今年については、先程上げてもらったものを入れ込むという形で、その後アンケートを通じて改善して行くという方法が良いと思います。
- (事務局) 豊寿大学と英会話を除いて数年続いたものは人気落ちてきたときに入れ替えていくという状況です。次回に詳しい資料をお示ししたいと思います。
- (会長) 一気に改善というのは難しいので、基本的な部分からしていきたいと思います。アンケートについて何か意見はございますか。
- (委員) 豊山町のはずれに住んでいるので、社教センターが遠いです。供用施設では講座を開講したことはありませんか。
- (委員) 生涯学習講座ではなくてサークルとして英会話や体操をしているところはある。
- (委員) 今後供用施設での開講に取り組んでいく予定はありますか。
- (事務局) 供用施設についてはサークル活動の拠点となっているため、講座の開設は難しいと考えています。
- (委員) 有料になって減少したりはしませんか。

- (事務局) そういうことはないと考えています。ただし土曜日の子どもの居場所作り事業について大人の参加が出来るものもあります。一部供用施設を使用しています。
- (委員) 大人は誰でもいいですか。
- (事務局) 大人だけでは参加できません。子どもを中心として余裕があれば大人も受け入れるという形になります。
- (委員) 例えば講師の方から供用施設を会場に希望されても、社教センターで行うということですか。
- (事務局) 各種団体、サークルの活動拠点となっていますので、そういった利用を減らすような事はしません。
- (委員) 使う趣旨が違うということですね。
- (会長) 供用施設ですと、遠い方と近い方がはっきりしてしまうので、良くないというのもあると思います。
- (会長) これまでと違う方向性の話をしてきましたが、多少反映される感じはしています。他にご意見はございますか。
- (委員) 開催してほしい講座のアンケートを取っていただけるようですが、教える側になりたいというアンケートは取りますか。
- (事務局) 前期の生きがいタウンにそういったものを掲載しています。随時登録を受け付けております。ボランティアで教えることはなかなか尻込みされる方も多いようです。
- (会長) 制度的に整備が必要だと思います。一番難しいのは、教える側のクオリティです。結構トラブルになっています。教えたい方が講師をやったが、実力が足りなくて、行政の方に苦情が来ることがあります。数人のグループでやりたいというものを応援してくださいという形にした方がいいと思います。
- (委員) そういう場合は応援する方向ですね。サークルにお願いされて、シルバーや生涯学習にも掲示や、お願いにきました。会員を増やすのも、流派があるようなものと、横のつながりなどがあって、苦労しました。
- (会長) 事務局補足ありますか。
- (事務局) 補足はありません。
- (会長) 次回の予定はいつごろですか。
- (事務局) 3月後半を予定しております。
- (会長) その時は来年度の事業は決まっていますので、その次の年のことについて考えていきましょう。
- (会長) それでは、皆様のご協力により、貴重なご意見をいただき実のある会議になりました。これで、本日の審議を終了します。
お疲れ様でした。
- (事務局) 活発なご意見ありがとうございました。

上記のとおり平成26年度第2回豊山町生涯学習推進審議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの会議録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

平成27年1月6日

会長 岡田洋司

署名人 谷口富士子